

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年8月4日

【四半期会計期間】 第69期第1四半期(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

【会社名】 株式会社東京自動機械製作所

【英訳名】 TOKYO AUTOMATIC MACHINERY WORKS, LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 山本治男

【本店の所在の場所】 東京都千代田区岩本町3丁目10番7号東自機ビル

【電話番号】 (03)3866-7171(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員経理担当 垣内真

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区岩本町3丁目10番7号東自機ビル

【電話番号】 (03)3866-7171(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員経理担当 垣内真

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第68期 第1四半期累計期間	第69期 第1四半期累計期間	第68期
会計期間		自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高	(千円)	1,158,204	1,102,191	7,567,523
経常利益又は経常損失()	(千円)	19,685	31,866	351,169
当期純利益 又は四半期純損失()	(千円)	16,310	24,732	266,921
持分法を適用した場合の 投資利益	(千円)	1,022	29,592	9,181
資本金	(千円)	954,000	954,000	954,000
発行済株式総数	(千株)	14,520	14,520	14,520
純資産額	(千円)	3,342,413	3,761,792	3,779,043
総資産額	(千円)	8,880,113	9,034,986	8,951,763
1株当たり当期純利益金額又は 四半期純損失金額()	(円)	1.13	1.72	18.54
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
1株当たり配当額	(円)			4.00
自己資本比率	(%)	37.6	41.6	42.2

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれる事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間における、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第1四半期累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）におけるわが国経済は、穏やかな景気回復基調が継続しているものの、米国の政権交代に伴う影響や為替動向など、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような経済情勢の下、当社は全社を挙げて業績の確保に努めました結果、前年同四半期を上回る受注を確保したものの、売上高につきましては11億2百万円（前年同四半期11億5千8百万円、4.8%減）となりました。

利益面では、前年同四半期に比べ原価率が0.2%減少し、販売費及び一般管理費も9百万円削減したものの、営業損失7千万円（前年同四半期営業損失6千6百万円、5.5%増）、経常損失3千1百万円（前年同四半期経常損失1千9百万円、61.9%増）、四半期純損失2千4百万円（前年同四半期純損失1千6百万円、51.6%増）となりました。

各セグメント別の業績は次のとおりであります。

包装機械部門におきましては、菓子・食品業界向けの贈答用包装機械や、製袋充填機、ラインシステム機器が好調に推移し、売上高9億2百万円（前年同四半期5億9千8百万円、50.6%増）となりました。当部門のセグメント利益は、1千6百万円（前年同四半期セグメント損失3千9百万円）となりました。

生産機械部門におきましては、引き続き多様な引合いをいただいておりますが、大型プロジェクトが一段落したことから、売上高1億9千9百万円（前年同四半期5億5千9百万円、64.3%減）となり、当部門のセグメント利益は3千3百万円（前年同四半期9千8百万円、65.7%減）となりました。

また、共通費は1億2千万円（前年同四半期1億2千6百万円、4.4%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

流動資産は、前事業年度末に比べて0.04%減少し、43億7千3百万円となりました。これは、商品及び製品が1億7千6百万円、仕掛品が1億7千5百万円それぞれ増加したのに対し、受取手形及び売掛金が2億5千1百万円、現金及び預金が5千8百万円それぞれ減少したことなどによります。

固定資産は、前事業年度末に比べて1.9%増加し、46億6千1百万円となりました。これは、有形固定資産が減価償却等により6百万円減少したのに対し、投資有価証券が9千4百万円増加したことなどによります。

この結果、総資産は、前事業年度末に比べて0.9%増加し、90億3千4百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前事業年度末に比べて3.0%増加し、32億4千4百万円となりました。これは、支払手形及び買掛金が3億2千9百万円、1年内返済予定の長期借入金が1千1百万円それぞれ減少したのに対し、短期借入金が3億円、前受金が6千9百万円それぞれ増加したことなどによります。

固定負債は、前事業年度末に比べて0.3%増加し、20億2千8百万円となりました。これは、長期借入金が3千9百万円減少したのに対し、繰延税金負債が2千8百万円、退職給付引当金が2千2百万円それぞれ増加したことなどによります。

この結果、負債合計は、前事業年度末に比べて1.9%増加し、52億7千3百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前事業年度末に比べて0.5%減少し、37億6千1百万円となりました。これは、その他有価証券評価差額金が6千5百万円増加したのに対し、利益剰余金が8千2百万円減少したことなどによります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期累計期間の研究開発費の総額は6百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

(注) 平成29年6月28日開催の第68回定時株主総会において、株式併合に係る議案が承認可決されております。これにより、株式併合の効力発生日(平成29年10月1日)をもって、当社普通株式10株を1株に株式併合し、発行可能株式総数は4,000,000株となります。

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年8月4日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	14,520,000	14,520,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は 1,000株であります
計	14,520,000	14,520,000		

(注) 1. 平成29年6月28日開催の第68回定時株主総会において、株式併合に係る議案が承認可決されております。これにより、株式併合の効力発生日(平成29年10月1日)をもって、当社普通株式10株を1株に株式併合し、発行済株式総数は1,452,000株となります。

2. 平成29年6月28日開催の第68回定時株主総会において、定款変更に係る議案が承認可決されております。これにより、効力発生日(平成29年10月1日)をもって、単元株式数は1,000株から100株に変更となります。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年6月30日		14,520,000		954,000		456,280

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 127,000 (相互保有株式) 普通株式 327,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,927,000	13,927	
単元未満株式	普通株式 139,000		
発行済株式総数	14,520,000		
総株主の議決権		13,927	

(注) 上記「完全議決権株式(その他)」の中には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株含まれております。
また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数2個が含まれております。

【自己株式等】

平成29年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) (株)東京自動機械製作所	東京都千代田区岩本町 3丁目10番7号	127,000		127,000	0.87
(相互保有株式) 東京施設工業(株)	千葉県富里市七栄字 南新木戸538番地2	327,000		327,000	2.25
計		454,000		454,000	3.13

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)及び第1四半期累計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目からみて、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合は次のとおりであります。

資産基準	0.54%
売上高基準	0.13%
利益基準	2.58%
利益剰余金基準	1.29%

会社間項目の消去前の数値により算出しております。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年 3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成29年 6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,096,665	1,038,584
受取手形及び売掛金	1,491,227	1,239,535
電子記録債権	247,006	191,119
商品及び製品	433,835	610,252
仕掛品	925,784	1,101,362
原材料及び貯蔵品	9,765	8,921
繰延税金資産	118,079	127,913
その他	101,365	104,139
貸倒引当金	48,924	48,570
流動資産合計	4,374,804	4,373,257
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,747,369	1,749,392
減価償却累計額	1,403,855	1,411,127
建物(純額)	343,513	338,265
構築物	228,834	228,834
減価償却累計額	213,058	213,363
構築物(純額)	15,775	15,470
機械及び装置	1,888,896	1,890,014
減価償却累計額	1,768,376	1,773,917
機械及び装置(純額)	120,519	116,096
車両運搬具	10,255	10,255
減価償却累計額	10,116	10,151
車両運搬具(純額)	138	104
工具、器具及び備品	269,029	257,025
減価償却累計額	261,814	245,002
工具、器具及び備品(純額)	7,215	12,022
土地	1,512,578	1,512,578
リース資産	250,582	249,623
減価償却累計額	103,177	103,598
リース資産(純額)	147,405	146,025
有形固定資産合計	2,147,147	2,140,563
無形固定資産		
投資その他の資産		
投資有価証券	1,633,554	1,728,019
関係会社株式	14,093	14,093
その他	825,381	828,011
貸倒引当金	100,000	100,000
投資その他の資産合計	2,373,028	2,470,124
固定資産合計	4,576,958	4,661,729
資産合計	8,951,763	9,034,986

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,608,695	1,279,239
短期借入金	-	300,000
1年内返済予定の長期借入金	165,200	154,000
リース債務	131,872	123,880
未払法人税等	16,097	8,800
前受金	752,780	821,925
賞与引当金	215,292	275,842
品質保証引当金	67,173	58,042
その他	193,985	223,130
流動負債合計	3,151,098	3,244,860
固定負債		
社債	300,000	300,000
長期借入金	552,900	513,700
リース債務	115,404	110,510
退職給付引当金	880,902	903,210
環境対策引当金	14,273	14,273
繰延税金負債	58,485	87,211
その他	99,654	99,428
固定負債合計	2,021,620	2,028,333
負債合計	5,172,719	5,273,194
純資産の部		
株主資本		
資本金	954,000	954,000
資本剰余金	456,280	456,280
利益剰余金	1,646,670	1,564,364
自己株式	22,132	22,166
株主資本合計	3,034,818	2,952,479
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	744,225	809,313
評価・換算差額等合計	744,225	809,313
純資産合計	3,779,043	3,761,792
負債純資産合計	8,951,763	9,034,986

(2) 【四半期損益計算書】

【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	1,158,204	1,102,191
売上原価	856,647	813,806
売上総利益	301,557	288,384
販売費及び一般管理費	368,069	358,555
営業損失()	66,511	70,170
営業外収益		
受取利息	373	373
受取配当金	16,520	17,358
受取賃貸料	44,148	41,668
雑収入	6,663	1,546
営業外収益合計	67,705	60,947
営業外費用		
支払利息	3,594	2,797
不動産賃貸費用	15,965	15,445
雑支出	1,320	4,400
営業外費用合計	20,879	22,644
経常損失()	19,685	31,866
税引前四半期純損失()	19,685	31,866
法人税等	3,374	7,134
四半期純損失()	16,310	24,732

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第1四半期累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
(税金費用の計算) 税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
減価償却費	28,285千円	29,183千円

(株主資本等関係)

前第1四半期累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	57,587	4	平成28年3月31日	平成28年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前事業年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第1四半期累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月28日 定時株主総会	普通株式	57,572	4	平成29年3月31日	平成29年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前事業年度末日と比較して著しい変動がありません。

(持分法損益等)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成29年6月30日)
関連会社に対する投資の金額	12,693千円	12,693千円
持分法を適用した場合の投資の金額	393,491千円	422,756千円
	前第1四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
持分法を適用した場合の投資利益の金額	1,022千円	29,592千円

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	包装機械	生産機械	合計	調整額 (注)1	四半期損益計算書 計上額 (注)2
売上高					
外部顧客への売上高	598,931	559,273	1,158,204		1,158,204
セグメント間の内部 売上高又は振替高					
計	598,931	559,273	1,158,204		1,158,204
セグメント利益又は 損失()	39,082	98,757	59,675	126,187	66,511

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額 126,187千円は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない総務部・CS部等管理部門の人件費・経費等であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	包装機械	生産機械	合計	調整額 (注)1	四半期損益計算書 計上額 (注)2
売上高					
外部顧客への売上高	902,256	199,934	1,102,191		1,102,191
セグメント間の内部 売上高又は振替高					
計	902,256	199,934	1,102,191		1,102,191
セグメント利益	16,612	33,824	50,437	120,607	70,170

(注) 1. セグメント利益の調整額 120,607千円は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない総務部・CS部等管理部門の人件費・経費等であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額()	1.13円	1.72円
(算定上の基礎)		
四半期純損失() (千円)	16,310	24,732
普通株主に帰属しない金額 (千円)		
普通株式に係る四半期純損失金額() (千円)	16,310	24,732
普通株式の期中平均株式数 (株)	14,396,763	14,393,044

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 8 月 3 日

株式会社 東京自働機械製作所
取締役会 御中

東 陽 監 査 法 人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 吉 田 光 一 郎 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 佐 山 正 則 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社東京自働機械製作所の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第69期事業年度の第1四半期会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)及び第1四半期累計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社東京自働機械製作所の平成29年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。